

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		第5期第9回相模原市緑区区民会議		
事務局 (担当課)		緑区役所区政策課 電話042-775-8802 (直通)		
開催日時		令和元年9月9日(月) 15時30分～16時55分		
開催場所		緑区合同庁舎 集団指導室		
出席者	委員	17人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	11人(緑区長、緑区副区長、緑区役所区政策課長、他8人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 議題 (1) 緑区基本計画の答申案の作成・検討について ・取組方針V(自然・環境) ・取組方針VI(地域コミュニティ・行政サービス) 3 その他 4 閉会		

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(◎は会長の発言 ○は委員の発言 ●は事務局の発言)

### 1 開会

牧瀬会長の司会進行により議事が進められた。

会議の成立要件を満たしている旨の報告、会議の公開、配布資料の確認を行った。また、傍聴希望者の報告を行い、現在、傍聴希望者はいないが、会議開催後に傍聴希望者が来場した場合は傍聴を許可することとした。

### 2 議題

#### (1) 緑区基本計画の答申案の作成・検討について

前回から引き続き、施策分野別に区の目指す姿及び取組方針について、素案を基に意見交換と内容確認を行った。

#### 【取組方針V】 施策分野 自然・環境について

自然・環境の施策分野について、それぞれの現状や今後の取組について意見交換するとともに、取組方針・項目の見出しについて協議した結果、以下の意見が出された。

(主な意見交換の内容)

○青根で星座の観測などを行っているので、「自然を生かしたまちづくり」はどうか。

○取組項目5-1の分野「生活環境」は内容と一致していない。

○鳥獣被害については、鳥獣の種別によって対応が異なるので、具体的に記載したらどうか。

◎鳥獣被害対策は個別計画あるのか。

●平成31年3月に市鳥獣被害防止計画を策定した。

◎緑区基本計画では包括的な意味合いもあるのでこのままでよいと思う。

○「自然と共存しあうまちづくり」はどうか。蛍など、水質環境の向上による地域の魅力も出てきている。地域の魅力向上の夢を入れられたらいいと思う。

○蛍の保護活動は城山地区でも行っているの、地域間で連携していければと思う。

◎蛍などの取組を区の概況等に記載してみてもどうか。

○不法投棄防止のため、クリーン活動をしているが、活動を広げ、連携していくことが必要だと思っている。

○川だけでなく、緑区の特徴である湖の活用を出してみてもどうか。

- 緑区は湖が4つある水源地域として、PRすることが必要だと思う。
- 鳥獣被害対策の文章内の4行目「自主的な対応力…」の文章が分かり辛い。
- 国定公園や丹沢山系などもあるので、山についても記載した方がよいのではないか。
- 捨て猫、外来植物などの問題についても入れてみたらどうか。
- 見出しを総括するのが難しい。それぞれ異なる文言になってしまうのではないか。
- 取組方針を「自然と調和したまちづくり」にし、取組項目を5-1は「自然を守る（とふれあう）まちづくり」、5-2は「農林業を守るまちづくり」にしてみてもどうか。

#### 【取組方針VI】 施策分野 地域コミュニティ・行政サービスについて

地域コミュニティ・行政サービスの施策分野については、それぞれの現状や今後の取組について意見交換するとともに、取組方針・項目の見出しについて協議した結果、以下の意見が出された。

##### (主な意見交換の内容)

- 地域コミュニティの維持のため、イベントや離れている地域間での連絡体制などに最新技術を取り入れてみたらどうか。
- 取組項目を地域コミュニティの内容と行政サービスの内容に分類すると良いと感じた。
- 人口減少・少子高齢化は食い止められないので、地域コミュニティや関係人口の拡大など外部との交流が盛んな区になるよう推進していきたい。
- 津久井地域の特色を生かした観光振興を進めていきたい。取組方針は、「交流しあうまちづくり」がいいと思った。
- 区役所機能は、主導性を持ったほうがよいと思う。
- ◎区役所機能強化は、「効果的な行政サービスの提供体制について、構築します」まで考えて欲しい。
- 自分の在籍する大学では、大学の特性で研究のため地域との関わりが多い。研究室に属さない学生の場合は、教授など中間となる人がいないと地域と関わるのは難しいかもしれないと感じた。
- 都市部は地域コミュニティが希薄化していると感じる。自治会加入率も50%を切っている。
- 地域の担い手についての記述について、連続性を持つことができるよう、30歳代の人のまちづくりへの参加についても記載したほうがよいのではないか。
- 大学と関わりを持ちながら地域活動をしているが、連続した地域の担い手の確保

となると学生が定着（定住）するのは難しいと感じる。地区に住んでもらう30～40代の人のまちづくりへの参加方策を考えなければいけない。

- 30～40代には雇用の場が必要だと感じる。産業・工場誘致などの体制づくりも必要になってくるのではないか。
- 中山間地域は交通網の整備が必要なので、自動運転などの記述が入るとよい。この分野の取組方針は「希望と活力あるまちづくり」はどうか。
- 新しい地域コミュニティを主眼とした場合は、「未来の（次世代の）まちづくり」、従来からある歴史あるものを次代へ引き継ぐ考え方であれば、「次世代につなぐまちづくり」はどうか。
- 未来を考えるとという視点では、「未来をつくるまちづくり」がいいと思う。
- 「持続可能なまちづくり」として、行政が手助けをしながら、地域の魅力を発見するきっかけを作り、魅力を伝えて愛着の醸成を図っていくのはどうか。
- 城山を活用したまちづくりの記載はできないか。
- パシフィコ横浜で行われたお城EXPOでは、城山にある津久井城に関心が持たれていた。
- 子どもセンターでの交流などもあるので、「公共施設も活用した」などの文言を入れてもよいのではないか。
- 地域の繋がりについて、祭りやイベントなど交流の場を作って欲しい。
- 地域コミュニティの醸成には子どもの頃の記憶が大きく影響すると感じる。子どもの頃の記憶に残ると大人になっても地域に戻りやすいと感じるので、子どもを交えた取組が必要ではないか。
- こども会はなくなってしまったが、こども部を作って未就学児を中心に子どもが集える場を作っている。親の負担が少なくなる方法など参加しやすい手法を考えることも必要である。
- スポーツなど地域が一丸となって人を呼ぶことで子どもが参加しやすいイベントを開催しているところもある。
- 桜まつりなど四季の環境や湖を生かしたまちづくりも必要だと思った。また、そういう要素や今後、リニアなど緑区が発展する要素を組み合わせ観光のPRをすることも必要だと思った。

次回は今回まで議論した内容を踏まえ、修正案を見た上で、緑区の目指す姿やまちづくりの取組方針の各項目について意見交換をしていく。

### 3 その他

次回の会議は、令和元年9月17日（火）午後3時から開催予定。

### 4 閉会

## 相模原市緑区区民会議委員出欠席名簿

(順不同・敬称略)

区 分	氏 名	所 属 団 体 等	出 欠 席
まちづくり会議	安藤 和実	橋本地区まちづくり会議	出席
	大貫 勲	大沢地区まちづくり会議	出席
	大参 正人	城山地区まちづくり会議	出席
	落合 勝司	津久井地区まちづくり会議	出席
	長谷川 兌	相模湖地区まちづくり会議	出席
	宮野 善三郎	藤野地区まちづくり会議	出席
関係団体	中山 光明	相模原市自治会連合会	出席
	今井 俊昭	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会	欠席
	中里 浩章	相模原市立小中学校PTA連絡協議会	出席
	原 正弘	相模原商工会議所	出席
	奈良 哲弥	津久井地域商工会連絡協議会	欠席
	吉野 賢治	一般社団法人 相模原市観光協会	出席
	飯塚 侑	公益社団法人 相模原青年会議所	欠席
	渡邊 博明	公益社団法人 津久井青年会議所	欠席
	佐藤 鉄郎	相模原市既存住宅リフォーム・改築推進協議会	出席
	小稲 香穂	あざおね社中	出席
学識経験者	◎ 牧瀬 稔	関東学院大学	出席
	㊦ 司 直也	法政大学	欠席
区民	高橋 朋樹	公募委員	出席
	齊藤 賢一	公募委員	出席
	池田 眞弓	公募委員	出席
民間事業者	山本 篤史	株式会社KADOKAWA	欠席
	道本 晃一	相模湖リゾート株式会社	出席
	高堂 智佳	東日本旅客鉄道株式会社	欠席
	中原 正貴	神奈川つくい農業協同組合	欠席

◎は会長、○は副会長